

SATREPS

地球のために、未来のために

SATREPS (サトレップス) は、開発途上国のニーズを基に、地球規模課題を対象とし、将来的な社会実装の構想を有する国際共同研究を政府開発援助 (ODA) と連携して推進します。本プログラムでは地球規模課題の解決及び科学技術水準の向上につながる新たな知見や技術を獲得することやこれらを通じたイノベーションの創出を目的としています。また、その国際共同研究を通じて開発途上国の自立的な研究開発能力の向上と課題解決に資する持続的活動体制の構築を図ります。これまで50ヶ国以上で160を超えるプロジェクトが採択されました。



SATREPSの3つの目標

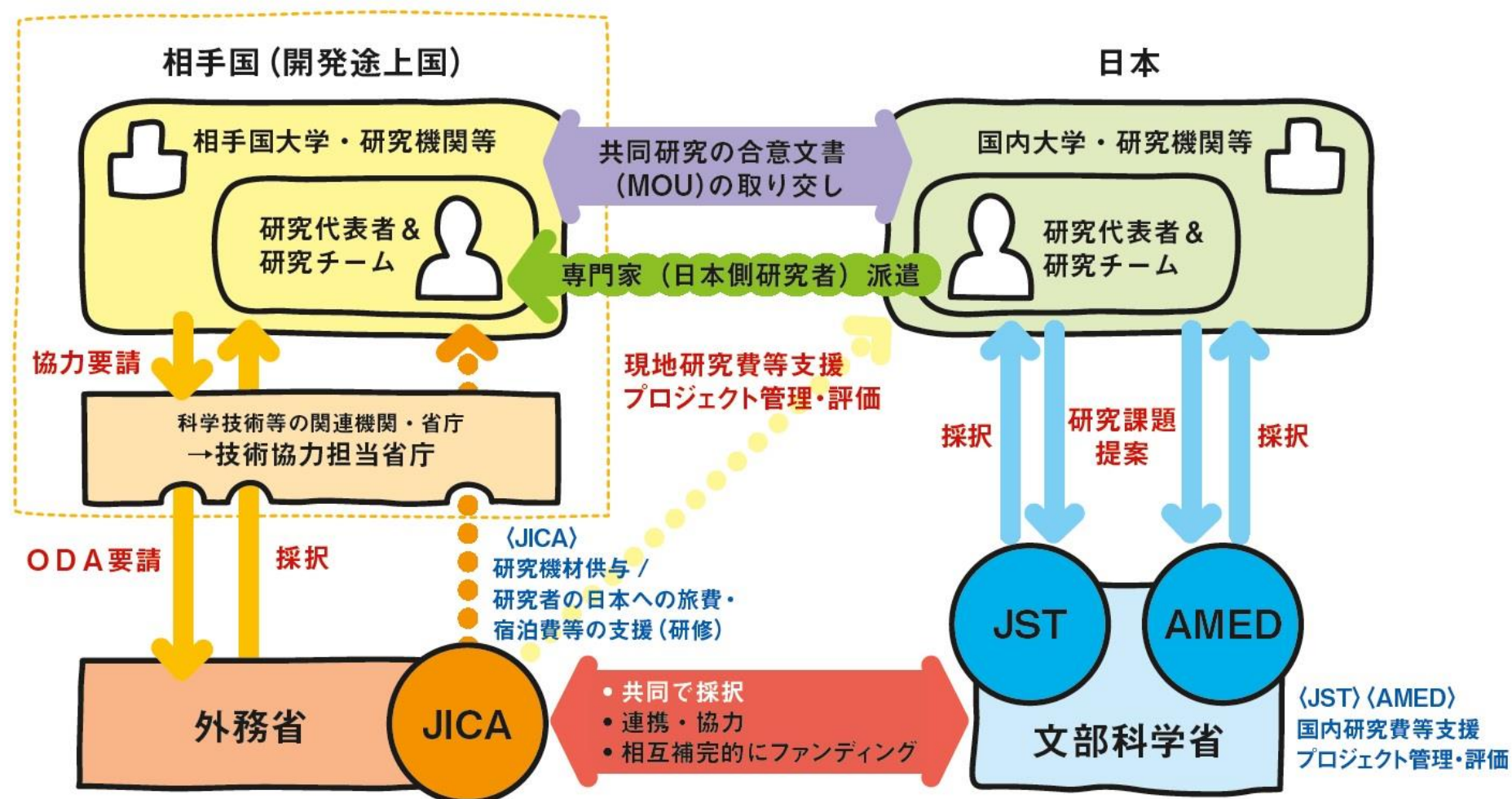
1. 日本と開発途上国との国際科学技術協力の強化
2. 地球規模課題の解決と科学技術水準の向上につながる新たな知見や技術の獲得、これらを通じたイノベーションの創出
3. キャパシティ・ディベロップメント*

↓

～研究成果の社会実装に向けて～

SATREPSのしくみ

SATREPSでは、国内研究機関への研究助成のノウハウを有するJSTと、開発途上国への技術協力を実施するJICAが、国際共同研究全体の研究開発マネージメントを協力して行います。日本国内や第三国で必要な研究費についてはJSTが委託研究費として支援し、相手国内で必要な経費についてはJICAが技術協力プロジェクトの枠組みで支援します。



Point

- **研究分野**
環境・エネルギー/生物資源/防災
- ※感染症分野の研究課題は平成27年度より日本医療研究開発機構 (AMED) が所管 (平成26年度までに終了した課題を除く)
- **国際共同研究期間**
3～5年
- **対象となる国(共同研究相手国)**
ODAの技術協力の対象となっている開発途上国等
- **プロジェクトの規模**
1課題あたり1億円程度/年

SDGsへの貢献

日本と開発途上国が科学技術力の向上を図り、地球規模課題の解決へ向けた共同研究を推進するなかで、両国の人材育成や科学技術の発展に大きく貢献し、社会実装につながる成果を生み出しています。そのため、本プログラムは国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に、日本がリーダーシップを発揮していくうえで重要な役割を果たすことが期待されています。



研究分野

環境・エネルギー分野

地球規模の環境課題

生態系・生物多様性の劣化、都市への人口集中、生産・消費活動の増大、環境汚染の拡大、気候変動など、地球規模で直面している環境課題の解決を目指します。



写真左：海岸部に漂着したプラスチックゴミをドローン空撮によって検出している様子 (タイ)
写真右：極乾燥地の農場を訪問し、地下水の利用状況を調査している様子 (ジブチ)

カーボンニュートラル

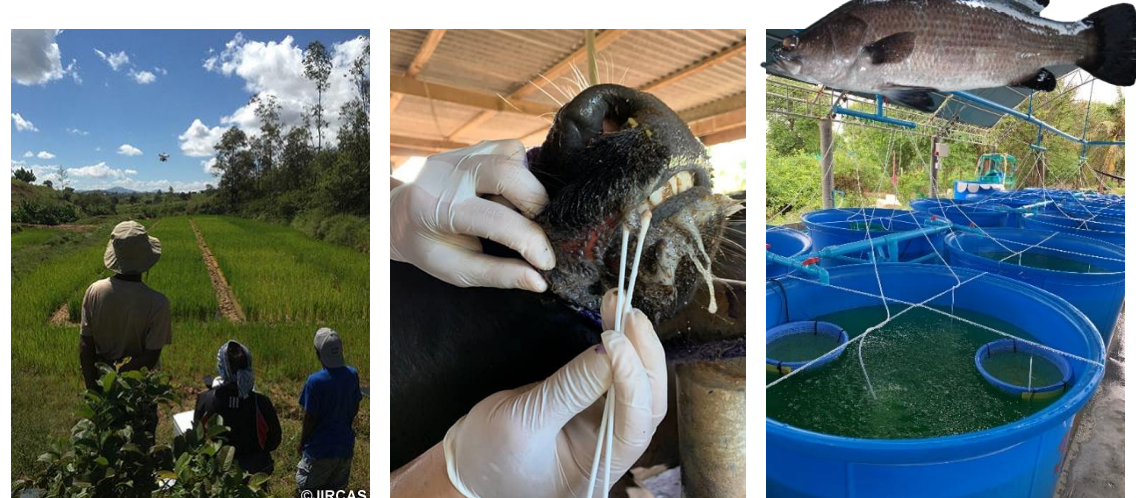
温室効果ガスによる気候変動を緩和するカーボンニュートラルの実現を目指して、エネルギー消費の抑制、再生可能エネルギーの促進、スマートソサイエティなどの研究開発を行います。



写真左：バイオディーゼル燃料で走るハロン湾の観光船 (ベトナム)
写真右：CSS(Carbon dioxide Capture and Storage)パイロット事業に向けた工事の様子 (インドネシア)

生物資源分野

気候変動は世界規模で様々な変化をもたらしており、生物資源の多様性および持続的な生産が脅かされています。食料、飼料、さらにエネルギー源など生物資源がもたらす恩恵を将来にわたって享受し続けるため、持続可能な生産・利用方を提示します。



写真左：ドローンによる水田での生育調査 (マダガスカル)
写真中：家畜感染症のマルチ診断システムの開発 (タイ)
写真右：食糧安全保障を目指した養殖法の開発 (ゲノム育種、ワクチン等) (タイ)

防災分野

安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市・社会の実現を目指して、自然災害や都市化に伴う大規模災害の防災・減災に関する研究を、日本の経験・知見を生かしながら、全地球的な枠組みの中で総合的・組織的に展開します。



写真左：津波避難訓練に取り組む子供たち (メキシコ)
写真右：フィリピン海で発生した台風の目を航空機から観測 (フィリピン)

